

## JR採用差別事件の早期解決を！

### JR採用差別事件の早期解決を求める12.8秋田集会を開催



十二月八日、午後六時から国会会館で、国労秋田地本と建交労秋田県本部の共催で、会場一杯となる地区集会が開催された。

この集会や行動に合わせ国労音威子府闘争団の杉山さん・全動労争議団(元苗穂機関区)の森さんが来秋し、支援団体の県平和労組会議議長の伊藤さん(秋教組委員長)・県労連議長の佐々木さん(秋高教組委員長)そして秋田地裁で勝利的和解を勝ち得た新秋管業分会の佐藤さん達三人の闘う仲間も含め約60人が結集した。集会では国労秋田地本瀬下委員長が「今こそ政治の責任で解決を。裁判所外での話し合いのテーブルも提起された。政治の判断を強く求める」と訴え、建交労県本部田中書記長は「国労闘争団・全動労争議団も加わっている四者・四団体による10・24集会が一万を超える多くの共闘の仲間が参加して成功した力を背景に解決へ全力を」と主催者代表の挨拶を行った。

建交労秋田地域支部・新秋管業分会の闘いの報告では、「労働組合を作ったら会社が全従業員を集め会社解散、全員解雇。これに対し秋田地裁で闘い、そして賃金一年半分の支払いという内容で和解。闘って良かった。ご支援に感謝する」と発言、満場の激励の拍手が渦巻いた。

音威子府・杉山さんは「積雪が二桁を超える村での生活と、闘争団家族の就職差別などの困難さもあったが、それらを乗り越えて頑張ってきたのは支援してくれる皆さんがいてくれたから。要求の三本柱の獲得まで頑張る」と決意を表明された。

全動労争議団の森さんは「首都圏オルグとして頑張っている。仲間が九州の集会に出席したとき平和センターや全労連の仲間がたくさん集会に参加してくれた。支援の輪の広がり感謝し、頑張る」と決意表明をした。

伊藤：平和労組会議議長・佐々木：県労連議長から「連帯し共に闘う」挨拶を受け、集会の最後に建交労県本部：石塚副議長の団結ガンパローの唱和をし、会場一杯の参加者全員でこれからの闘いの決意を固めあった。



### ～県・秋田運輸支局・秋田労働局への行動を展開～



翌九日、午前九時から国労秋田地本(瀬下・渡邊)・建交労県本部(田中書記長)・県労連(越後屋事務局長)と闘争団(杉山)・争議団(森)の六名で県雇用労働政策課(佐々木課長)へ。要請書への回答は「厚生労働省大臣官房へ要請の内容等をお伝えする」。秋田運輸支局(佐藤主席運輸企画専門官)は「国土交通省へ要請があったことをお伝えする」。秋田労働局(総務部企画室町田室長補佐)も「県労働政策課と連絡を取り合いながら厚生労働省へお伝えする」などだったが、それぞれの要請個所で、「二十二年を迎えている。1047名の中で死亡した人や病気で働けない状態の人もある。みんな苦しい時間を過ごしてきた。一日も早い解決を求めている」と強く訴えてきた。対応した方々も真摯に話を聞き、丁寧な対応であり、これまでの粘り強い要請行動が徐々に対応としても現れていると感じた。(集会で要請書は配布したので細部は省略)

要請行動を終了し、昼食の後、音威子府闘争団の杉山さん、全動労争議団の森さんはそれぞれ北海道、東京へと向かった。

### ～午後からは支援単組要請行動へ～

午後からは、瀬下委員長、渡邊書記長の二人で音威子闘争団手作りの羊羹を持ち、年末物資販売カタログや10/24集会国鉄新聞特集号等を袋詰めし、以下の単組等を訪問した。事前に連絡をしていたので比較的スムーズに対応してもらうことができた。二人で「年内解決は困難かもしれないが、早期解決へ向けこれからも支援をお願いします」と、これまでのお礼と今後の闘いへの支援要請を行った。

要請した支援単組等 自治労県本部、厚生連労組(鈴木書記長)、秋教組(鈴木副委員長)、秋高教組(佐々木委員長、大塚書記長)、秋大労組、全自交(高橋書記長)、農協労、林野労連(今委員長)、医労連(佐竹副委員長、松坂書記長)、中通病院労組(三浦書記長)